

琉球大学学術リポジトリ

琉球と日本本土の遷移地域としてのトカラ列島の歴史的 位置づけをめぐる総合的研究

メタデータ	言語: 出版者: 高良倉吉 公開日: 2009-03-03 キーワード (Ja): トカラ列島, 琉球, 十島村, 中之島, 奄美 キーワード (En): Tokara Islands, Ryukyuan, Toshima village, Nakanosima island, Amami Islands 作成者: 高良, 倉吉, 山里, 純一, 池田 栄史, 赤嶺, 政信, 狩俣, 繁久, 真栄平, 房明, 豊見山, 和行, 鈴木, 寛之, Takara, Kurayoshi, Yamazato, Junichi, Ikeda, Yoshifumi, Akamine, Masanobu, Karimata, Shigehisa, Maehira, Fusaaki, Tomiyama, Kazuyuki, Suzuki, Hiroyuki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/9008

九州方言と琉球方言のはざまで

—トカラ方言の位置をかんがえる—

かりまたしげひさ

§1. はじめに

台湾と与那国島の間をとおって東シナ海にながれこんだ黒潮は、奄美大島とトカラ列島のあいだをとおってふたたび太平洋にながれていく。この黒潮によって区切られた地域、すなわち、沖縄県の八重山諸島、宮古諸島、沖縄諸島に、鹿児島県の奄美諸島をくわえた琉球列島の島々で話されてきたことばは、日本語の地域的な変種のひとつであり、「琉球方言」とよばれる。しかし、この地域が1609年に薩摩藩によって侵略され、奄美諸島を割譲される以前の琉球王国の版図であり、1879年に日本国にくみこまれるまでのながいあいだ独立の国家であったこと、また、本土でつかわれていることば（本土方言）と音韻、文法、語彙のいずれの側面においてもおおきくちがうために、「琉球語」ともよばれる。

琉球方言と本土方言とのちがいのおおきさゆえに、日本語諸方言が本土方言と琉球方言に大きく区分されることは定説となっている。琉球方言と本土方言を区分する境界線は、また、世界中の生物をいつつに区分した生物地理区分のうちの「旧北区」と「東洋区」にわたる「渡瀬線」とかさなっていて、琉球列島以南の地域とトカラ列島以北の地域は、植物相においても、動物相においてもことなる様相をみせているのである。方言境界と生物地理区分のあいだに直接の因果関係はないが、そのかさなりには興味ぶかいものがある。

生物地理区分的に旧北区と東洋区にわかれているとしても、ふとい一本の線によって断絶しているわけではない。個々の生物ごとに南限種と北限種の分布の境界線は薩南地域から種子島、屋久島、トカラ列島、琉球の地域にいくつもの線がひかれている。そして、生物の分布がしめしているように、琉球方言と本土方言とのあいだにもこえることのできない絶対的な断絶があるわけではなく、個々の言語現象ごとに何本ものほそい線がひかれている。

琉球方言がいつごろから琉球列島でつかわれるようになったのか、その時期の特定も解決しているわけではない。これまでのおおくの方言研究者は、分岐の時期についてどんなにふるく見つもっても縄文時代にまではさかのぼらないこと、下限も平安時代以降にはくだらないとかがえていた。そして、その伝播が琉球列島から北上したのではなく、九州から島伝いに南下したことはほぼ確実である。なお、最近の考古学、形質人類学の研究から九州からのおおきな規模のヒトの移動が10世紀前後にあったのではないかというかんがえがだされている。もし、そうであれば、琉球方言の形成過程についての従来のかんがえを再検討する必要はないだろうか。いずれにせよ、琉球方言が日本祖語から分岐して以

降、相互の交流がないまま隔絶していたというわけではなく、分岐後、そして現在にいたるまでのながい期間ずっと交流があったのであり、それを前提に議論をすすめる必要がある。

いずれにせよ、約1千キロメートルにおよぼんとする琉球列島の隅々、とりわけ宮古島以南の南琉球、最南端の波照間島や最西端の与那国島に到達するまでかなりの時間を要したことであろう。しかし、その伝播のおおきな波が一回きりのものだったのか、あるいは複数回あったのか、複数回あったとして、それぞれの時期がいつだったのか、そして、それらのことが琉球方言の形成にどんな影響をあたえているのかなどなど、まだまだあきらかにされていないことはおおい。

琉球方言のふるい姿をかんがえるとき、あるいは、ふるい時代の琉球方言と本土方言、とくに九州方言との関係や交流をかんがえるとき、トカラ方言は重要な位置をしめるものであることはうたがない。トカラ方言が、トカラ以南の琉球列島の諸方言と共通にもつ特徴について、一部指摘されているが、全体についての詳細な研究はまだでていないし、これまで琉球方言研究者がそういう観点からトカラ方言を調査、研究してこなかったのも事実である。

本稿は、トカラ列島南端の島と奄美大島のあいだの海峡を境に区分される本土方言と琉球方言の連続と断絶のありようや関係をかんがえ、そして、そのことをとおして琉球方言とはどういう特徴をもった言語なのかをかんがえるためのささやかな問題提起であり、九州と琉球のあいだにほそながくつらなるトカラ列島のことば（トカラ方言）の位置づけをかんがえるものである。

§2. 琉球方言と九州方言

本土と琉球列島を行き来する飛行機や船は、トカラ列島のはるか上空を、あるいはとおくの沖を通過するだけでトカラの島々にたちよることはほとんどない。しかし、かつて本土と琉球を行き来した人々にとってトカラ列島は重要な経由地であったであろう。

九州と琉球との往来や交流の痕跡がトカラ方言、あるいは、トカラ列島と隣接する奄美大島や喜界島をふくむ奄美各地の諸方言にのこされていないだろうか。そして、どんなふうにその痕跡がのこされているのだろう。

琉球列島は隣接するトカラ列島を経て九州とは地理的に連続していて、ふたつの地域には交流があり、縄文、弥生時代以降、緊密な関係にあった。トカラ方言が緩やかな緩衝地帯となっていて、琉球方言と九州方言は連続した面もみせる。それは、とくに語彙の面にみられる。手、目、鼻、耳などの身体名称、風、月、星、水などの自然現象などの基礎語彙のおおくは共通である。ただし、琉球方言でおこったはげしい音韻変化の結果、表面上はちがって見えるものもおおい。

琉球方言に固有の語彙とおもわれるもののなかには九州方言と共通する語彙が決してすくなくなく、琉球方言と九州方言のあいだには共通する現象がおおくみられる。野原三

義は、琉球方言と九州方言の一致、類似した語をぬきだしている¹。

たとえば、ホガス（穴をあける）、ホゲル（穴があく）、ホメク（蒸し暑い）という動詞が九州各地にみられるが、首里方言ではフガスン、フギユン、フミチュンといい、語形はちがってみえるが共通の語根からなりたっている。スバ（唇）が鹿児島と宮崎南部に見られるが、首里方言ではシバというし、アコクロ（薄暮）、ノイ・ノリ（苔）、フチ・フツ（蓬）、ドシ（友）、ゴイ・ゴリ（にがうり）も九州各地に点在していて、首里方言でもアコークロー、ヌイ、フーチバー、ドウシ、ゴーヤーという。その他にも多くの共通の単語がみられるが、その傾向は西南九州、そして南の離島にいくほど顕著になるようである。また、音韻論的にも文法論的にも琉球方言と九州方言と共通のものがみられる。

オ段長音の開合について、標準語および多くの本土方言で統一されて、/o : /となるのに対して、九州方言には開音の母音が/o : /で、合音の母音が/u : /になっていて、両者の区別が保たれるばあいがあるが、これは琉球方言でも同様である²。

開音	兄弟	キョーダイ [平島]	チョーデー [那覇市首里]
	醤油	ショーユ [平島]	ショーユー [那覇市首里]
合音	今日	キュー [平島]	チュー [那覇市首里]
	大風	ウーカゼ [口之島]	ウーカジ [那覇市首里]

類似する文法現象としていくつかの助詞の用法をあげることができる。標準語では移動手段をあらわすのは「で格」の名詞だが、琉球方言、そして九州方言には「から格」の名詞があらわすことがある。

[鹿児島市] 電車カラ 来た。
[首里] デンシャカラ チャン（電車で来た）。

動作の目的をあらわすのは、標準語では「に格」だが、琉球方言、九州方言では「が」「げ」「ぎゃ」などの格形式があらわしていて、これも琉球と九州で共通の現象である。

¹ 野原三義1980～1986「琉球方言と九州諸方言との比較」（『沖縄国際大学文学部紀要（国文学篇）』第8巻第1号～第12巻3号）に詳しい。

² 琉球方言（奄美大島北部方言をのぞく）では1音節語を、ミー（目）、ヒー（火）、チー（血）のように母音を2モーラにのばして発音する。これは九州から関西にかけてのひろい地域にもひろく分布する現象である。また、標準語では清音（無声音）ではじまるが、琉球方言でも九州方言でも濁音（有声音）ではじまる単語がある。

蟹：ガネ [中之島] [平島] ガニ [那覇市首里] [今帰仁村]

[長崎島原] 酒 飲みガ 行く。

[首里] サキ ヌミーガ イチュン。(酒を飲みに行く)。

奄美、沖縄の諸方言の動詞の形は、本土方言とちがいがおおきいようにみえる。

書く カチュン [首里] ハキュン [笠利町佐仁]

起きる ウキュン [首里] フィン [名瀬市名瀬勝]

見る ンージュン [首里] ミリュン [笠利町佐仁]

奄美、沖縄の諸方言の動詞は、連用形に存在動詞ヲウン（居る）が融合して成立している。カキヨル、オキヨル、ミヨルなどのように、動詞連用形に存在動詞「居る」が文法化して融合した動詞の形式をもつ九州、四国、中国、そして関西の諸方言と類似の形式である。九州、西日本方言のカキヨルやミヨルは動作・変化の進行をあらわして、未来のひとまとまりの動作、変化をあらわす奄美沖縄諸方言とことなるが、奄美沖縄諸方言もかつては動作や変化の進行をあらわして、おなじだったのである。

たしかに、琉球方言と本土諸方言とのあいだにはおおきなちがいがあって、日本語諸方言が二分されるのだが、隣接する九州方言を介して本土諸方言とつながっていて、とくに九州方言には共通の現象があり、おおきな断絶があるというわけでもない。野原(1980)などからもあきらかなように、九州の西南部、そして離島にいくほど琉球方言と類似・共通する現象がおおくみられるようになる。

琉球方言と九州方言の本格的な比較研究がないので確実なことはいえないが、両者の一番おおきな違いは発音上のちがいであろう。そして、それを生んでいるのは、琉球方言全体にあまねく起こった「狭母音化」と呼ばれる母音の変化とそれにもなう子音の変化であり、そのために、両者がおおきくことなることとなった³。

§3. トカラ方言と琉球方言

木部暢子(2000)によると、トカラ列島の方言は、北部方言、中部方言、南部方言のみつに区分できるようである。

1. 北部方言（口之島・中之島・平島）
2. 中部方言（諏訪之瀬島）
3. 南部方言（悪石島・小宝島・宝島）

鳥：ガラス [宝島]

ガラサー [那覇市首里] [今帰仁村]

³ 狭母音化とは、琉球方言全体にみられる $o > u$ の変化と、奄美沖縄方言における $e > i > i$ の変化、宮古八重山の南琉球方言における $e > i$ 、 $i > ɪ$ の変化のことである。

トカラ列島には奄美大島、そのなかでもとくに笠利町からの移住者がおおい。諏訪之瀬島は、明治 16 年に島の中心にある活火山、御岳^{おたけ}が大噴火し無人島となった。その後、奄美大島笠利町からの開拓民が移住したために、現在でも奄美方言がはなされていて、せまい意味での「トカラ方言」とはいえない⁴。中之島の東区も明治期に奄美大島からの移住者のおおい集落で、そこでも奄美方言が話されている。

トカラ南部方言の宝島方言と子宝島方言には、中舌母音 /i//ë/ があって、奄美方言との類似性が指摘される。たしかに、中舌母音 /i//ë/ は、琉球方言のなかでも奄美德之島諸方言に特徴的にみられるものである。奄美德之島諸方言の中舌母音にはつぎの(1)~(5)のタイプがある。

(1) 日本語の母音 e が変化した /i/

m i (目)、t i (手)

(2) 日本語のす、つ、ず(づ)の母音 u が変化した /i/

s i (巢)、t z i k i (月)、m i d z i (水)

(3) 日本語の二重母音 a i, a e, o e が融合(相互同化)した /ë/

m ë (前)、h w ë (灰)、k ë (声)

(4) 語中の k をはさんで広母音 a と半広母音 e, o が同化(遠隔同化)した /ë/

s ë h ë (酒)、d ë h ë (竹)、w ë h ë (桶)

(5) 先行する音節の広母音 a の影響による /ë/

k a d z ë (風)、? a s ë (汗)

いっぽう、宝島方言の中舌母音 /i//ë/ は、うえの(1)~(5)のうち、(3)のタイプしかみられないようである。

i w ë (祝い)、d ë k o n (大根)、o t o t ë (一昨日)、o t o g i : (顎)

たしかに、中舌性の母音があらわれるのは南に隣接する奄美大島方言と共通するものであるが、a i、a e、o i などの二重母音が融合する現象は、a i、a e > ë > e という変化の過程にあるもので、奄美大島、トカラ列島宝島(木部(2000)によると小宝島も)の方言にかぎらずひろくみられる現象であるとかんがえられる。このかぎられた条件のもとにあらわれる中舌母音の存在をもって、宝島方言(小宝島も)を奄美方言と直接むすびつけるのはむづかしい。開合の区別、語頭清音の濁音化など琉球方言に類似の現象を一部に

⁴ 田畑千秋(2002)は、諏訪之瀬島の奄美大島からの移住者の方言を調査し、そこで話されている笠利町方言と奄美大島で話されている笠利町方言との一致度を調査している。

みせるが、音韻論的な特徴の全体をみると、トカラ方言は琉球方言とことなっている。

トカラ列島の方言は、九州方言に属するものではあるが、語彙の面からみると、琉球方言に似た現象をしめすものがある⁵。鹿児島県揖宿郡穎娃町⁶、十島村宝島⁷、大島郡瀬戸内町諸鈍⁸、那覇市首里⁹のみつつの方言をくらべてみる。

	揖宿郡穎娃町青戸	十島村宝島	瀬戸内町諸鈍	那覇市首里
顔	ʃ u r a	t s u r a	t' i r a :	tʃ i r a
唇	s u b a	s u p a	s i b a :	ʃ i b a
膝	tʃ u m b u ʃ i	t s u b u ʃ i	t' i b u ʃ	tʃ i n ʃ i
胞衣	i j a	i j a	? i j a	? i j a
太陽	h i d o n	t e n d o :	t' i d a :	t i : d a
權	————	j a k o	j u h o :	? w e : k u
櫛	k u ʃ	s a b a k i	s a b a k	s a b a tʃ i

「顔」「唇」「膝」「胞衣」は音声形式に相違はみられるものの、よつつの地域に共通にみられる同系列の語である。それに対して、「太陽」「權」「櫛」は十島村宝島方言の語が琉球方言と共通する語である（穎娃町方言には「權」に相当する語がないが、これは他の地域でもみられないものである）。

古文献にのこされた語で九州方言と琉球方言の類似をしめすものもある。上村孝二(1961)にはつぎの記述がある。

大隅肝属郡内之浦町の漁民は、「暗礁」をヒシと呼び、「陸続きの暗礁」をもそう呼んでいる。また同じものをトカラ列島でフセと言う。このヒシは「大隅風土記」に、隼人の俗語では海中之洲を必至（ヒシ）というに見えるその「必至」なのであって、フセはそれと兄弟分の語であろう。ヒシという語は沖縄方言にも分布している（後略）

上村(1961)は、そのほかに、ニュージ、ミュージ（虹）、ハンス、ハンツ（甘藷）、カ

⁵ 平山輝男(1967)には、「十島村の口之島、中之島では、kakiboʃika（書きたい）があつて、琉球方言と似た形（kakibusan、筆者補い）を示している」とあるが、これがトカラ方言だけのものなのか、トカラ以北の九州方言にもみられるのか、確認が必要である。

⁶ 穎娃方言の資料は1993年の調査で得られたものである。話者は、西俊寛(S.9)と東久(T.13)。

⁷ 宝島方言の資料は田尻英三(1980)から。

⁸ 諸鈍方言の資料は1986年～1992年の調査で得られたものである。話者は昭山時男(M.38)、吉川忠(M.39)、吉川彦一(M.38)。

⁹ 首里方言の資料は『沖縄語辞典』（国立国語研究所編、1963）を利用。ただし、資料の統一をはかるために、表記を簡略的な音声記号になおしている。

ノク（砂浜）、ハビー（蝶）などがトカラ方言に存在し、これが「奄美系の語彙」であると位置づけている¹⁰。今後詳細な比較、検討が必要なのだが、ふるい時代にトカラ方言が琉球方言圏に属していた可能性があり、上の単語はそのときの痕跡とみることはできないだろうか。トカラ方言をどう位置づけるか、琉球方言との関係のなかで再検討してみる必要があるのではないだろうか。

いっぽう、琉球方言とトカラ方言のあいだに共通にみられる単語のなかには、琉球方言（このばあい、隣接する奄美方言）からの借用とかがえらるものがふくまれていないだろうか。

たとえば、紬の染料になる樹木のシャリンバイを中之島方言では「テーチギ」というようだが¹¹、これは明らかに奄美方言からの借用である。首里方言などとの比較から、祖形は / * t e k a tʃ i / であったと推定されるが、奄美方言では語中の k をはさんで広母音、半広母音が同化する現象（遠隔同化）がみられ、奄美大島北部方言ではその語中の k が h に変化し、さらにその h が消失して「テューチギィ」に変化するのだが、その変化が終了したのちに、中之島にもちこまれたものであることがわかる。トカラ方言には、そのような語中の k の消失や母音の融合（遠隔同化）がみられないのだ。

中之島方言	テーチギ	t e : tʃ i g i
笠利町佐仁方言	テューチギィ	t'ë : tʃ i g i
那覇市首里方言	ティカチ	t i k a tʃ i

上村(1961)にあげられているハンス、ハンツ（甘藷）も奄美方言からの借用語彙の可能性があり、しかも、甘藷が沖縄、奄美地域で栽培されるようになった時期をさかのぼらない、それほどふるい時代のものではないとかがえられる。ちなみに、甘藷をハンス、ハヌスなどというのは奄美大島南部地域におおい。このように、奄美大島から移住した人々が持ちこんだ語彙もあるとかがえられるので、慎重な比較研究がなされなければならないのは当然であるが、しかし、先にあげた身体名称をふくむ単語は、借用されにくいもののおよむようにおもわれる。

§4. おわりに—あらたな課題

トカラ方言は、北からの影響をつよくうけているのだが、それだけではなく、南からの影響も少なからずうけている。それは幾重にもかさなってトカラ方言を形成しているであろう。その幾重にもかさねられた薄衣をていねいにめくることは、トカラ方言の構造を

¹⁰ 上村孝二(1961)ではトカラ列島のどの島の方言なのかは不明。

¹¹ 斎藤毅(1980)「中之島および宝島における野生植物の利用形態」（『トカラ列島—その自然と文化』古今書院）による。

あきらかにするだけでなく、琉球方言と九州方言との交流、琉球方言形成のプロセスを解明する重要な作業でもある。

トカラ列島以北の方言にはみられない琉球方言に固有の現象にはどのようなものがあるのだろうか。琉球方言に固有の語彙として、w u n a i (をなり・兄弟からみた姉妹)、j i k i : (えけり・姉妹からみた兄弟) をあげることができるが、その他にはどのようなものがあるだろうか。琉球方言に固有の文法現象には何があるか。「狭母音化」はなぜトカラ方言や九州方言にはみられず、琉球方言にだけみられるのか。

いっぽう、琉球方言のどこがトカラ方言や九州方言と共通で、なぜそうなっているのか。これまでの琉球方言研究の蓄積を土台にして、それらを解明していくことによって、琉球方言とは何なのかをあきらかにしていくための手がかりをえることができるだろう。トカラ方言の調査・研究は琉球方言研究にとっても重要であり、トカラ方言や九州方言にもっと注目していかなければならない。そして、この課題を解決するために、いまのうちに調査しておかなければならないことはないだろうか。いまの琉球方言研究に足りないのは何か。トカラから琉球を見る目をもつことが必要なのである。

【参考文献】

- 式根利治(1932)「宝島方言集」(『方言』2-1)
- 吉町義雄(1940)「吐噶喇諸島方言」(『旅と伝説』13-4)
- 平山輝男編(1967)「トカラ群島・屋久島・種子島の方言」(『国語学』69)
- 上村孝二(1961)「九州・琉球方言の語彙—南九州」(『方言学講座第4巻』東京堂出版)
- 平山輝男編(1969)『薩南諸島の総合的研究』
- 家村睦夫(1971)「中之島の方言の音韻について」(『鹿児島地理学会紀要』19-2)
- 田尻英三(1975)「トカラ列島(中之島・平島)のアクセントと語彙」(『語文研究』39.40)
- 田尻英三(1980)「吐噶喇列島の方言」(『トカラ列島—その自然と文化』古今書院、)
- 家村睦夫(1980)「中ノ島の方言について」(『トカラ列島—その自然と文化』古今書院)
- 木部暢子(1993)「トカラ列島宝島の中舌母音」(『国語国文薩摩路』37)
- 上村孝二(1998)「九州方言の概観」(『九州方言、南島方言の研究』)
- 木部暢子(2000)「吐噶喇の方言」(『十島村誌』)
- 木部暢子(2000)「トカラ列島の方言」(『西南部九州二型アクセントの研究』勉誠出版)
- 田畑千秋(2002)「トカラ列島の言語事情—諏訪之瀬島にのこる奄美方言—」(『国文学解釈と鑑賞』848号)
- 野原三義(1980~1986)「琉球方言と九州諸方言との比較I」(『沖縄国際大学文学部紀要(国文学篇)』第8巻第1号~第12巻3号)
- 上村幸雄(1993)「琉球列島の言語・総説」(『言語学大辞典』第4巻下巻、三省堂)

(狩俣 繁久 琉球大学法文学部教授)

補 資料について

トカラ方言に関するふたつの資料を掲載する。

ひとつは、鹿児島本土の揖宿郡頴娃町青戸、トカラ列島鹿児島郡十島村宝島、奄美大島の大島郡笠利町佐仁のみつつの方言の語彙をならべて、比較できるようにしたものである。そこで提示された語彙は、沖縄言語研究センターが作成した『琉球列島の言語の研究－第一調査票その2』のものである。もうひとつは、宝島方言の語彙で、これも沖縄言語研究センター『琉球列島の言語の研究－第二調査票』『琉球列島の言語の研究－第三調査票』『琉球列島の言語の研究－第四調査票』を使用した調査でえられたものである。

十島村宝島の資料は、幸地一氏が1993年8月19日から8月26日の期間に現地調査によってえられたものである。頴娃町青戸の資料は、狩俣繁久と冨高康一のふたりが1993年9月29日、30日に現地調査によってえられたものである。いずれもみじかい期間に、しかも鹿児島方言の調査に不慣れなままおこなった調査であり、その後の確認調査もおこなっていないので、かならずしも十分なものとはいえず、注意して利用しなければならないが、鹿児島、トカラ、奄美のみつつの地域の方言を比較してみる参考資料として掲載した。第一調査票は身体部分、動物、植物にかかわる基礎的な語彙である。

奄美大島の最北端の笠利町佐仁の資料は、かりまたが2000年から現地でおこなっている調査によってえられた資料に、2002年、2003年に琉球大学琉球方言研究クラブの現地調査でえられた資料をくわえたものである。佐仁方言は他の奄美大島の諸方言にはない音声的な特徴をもっていて、典型的な奄美大島の方言とはいえないが、語彙的にみて他の奄美大島（とくに北部）の方言とおおきくかわるところがなく、最北端でトカラ列島にもっともちかい方言であることから、ここに掲載した。話者の名前をおひとりずつあげないが、くわしくは、かりまたしげひさ(2003)『奄美大島笠利町佐仁方言の音声と語彙』、琉球方言研究クラブ(2003)『琉大方言第18号－奄美大島笠利町佐仁方言の基礎語彙と民俗語彙』を参照。

頴娃町青戸の方言も宝島の方言も、おなじように、それぞれの地域を代表する方言とはかならずしもいえないかもしれないが、同一の項目を調査した資料を提示するという意味で掲載した。

第二調査票には、食、住、衣に関する基礎的な語彙、地形、自然（太陽、月、風など）、道具、民具、時間（今日、明日、朝、昼、一月、二月など）、数（一つ、二つ、一人、二人、たくさん、少しなど）などの語彙が、第三調査票には親族、人間関係、空間（上、下、東、西など）、代名詞（あなた、私、これ、それ、いつ、どこなど）の語彙が、第四調査票には、形容詞、擬声擬態語が、それぞれ収録されている。

穎娃方言、宝島方言、佐仁方言 比較資料

項目名	穎娃町青戸	十島村宝島	笠利町佐仁
頭	bin ¹ ta	ɿbinta	ha ¹ :tzi/tzĩ ¹ buru
首	ku ¹ ʔ	ɿkubi	kũ ¹ bi
顔	tʃu ¹ ra	ɿtsura	tzi ¹ ra/ha ¹ o
耳	¹ miN	ɿmimi	mi ¹ N
目	¹ me	ɿme	mĩ
鼻	ha ¹ na	ɿhana	p'a ¹ na
口	ku ¹ t	ɿkũtʃi	kũ ¹ tzi
髪の毛	bintaŋ ¹ ke	ɿbintaŋke	ha ¹ :tziinu ¹ p'igi
つむじ	sa ¹ ra (hĩtoddzara /hũtad ¹ dza ¹ ra)	kjo: ¹ maki	ha ¹ :tziinu ¹ tzi ¹ dzi
禿	ha ¹ ŋe	ɿhane	p'a ¹ gi
禿頭	hanebin ¹ ta	ɿhanebinta	p'a ¹ gatzĩburu
ふけ	hu ¹ ke	—	ʔi ¹ riki
眉	maju ¹ ŋe	ɿmabi	ma ¹ ʃump'igi
睫毛	mabbaŋ ¹ ŋe	ɿmatsuge	mĩ ¹ matzĩgi
臉	maN ¹ ta/me ¹ manta	ɿmeno ko:	mĩ ¹ pũta
涙	nan ¹ da/nanda ¹ me	ɿnamida	na ¹ da
盲	megu ¹ ra	me: ¹ kura	mĩk ¹ ka
聲(先天)	mintʃum ¹ bo	ɿtsumbo	mi ¹ ŋkũdʒira
聲(後天)	tʃum ¹ bo	—	miŋk'o
額	hĩ ¹ teŋ ¹ kut (hũ ¹ teŋ ¹ kutとも)	ɿʃi ¹ tĩ:~ʃi ¹ tĩ ¹ :	mĩt ¹ tzi
眉間	mi ¹ keN	—	mak ¹ kin
下顎	a ¹ ŋo	ɿaŋo	k'a ¹ :dzĩ
顎の先	odo ¹ ŋe	ɿotogĩ:	ʔo ¹ t'ogẽ
頬	¹ hu	ɿho: ¹ tabura	—
こめかみ	—	ɿkobin	mĩt ¹ tzinup'ukkũi
髭	hi ¹ ŋe	ɿhige	p'i ¹ gi
唇	suba	ɿkũtʃibiru	kũtzi ¹ biru
下唇	sita ¹ su ¹ ba	—	ʃa: ¹ biru
上唇	ue ¹ su ¹ ba	—	ʔwa: ¹ biru
齒	¹ ha	ɿha	p'a
舌	ʃi ¹ ta	ɿʃita	sĩ ¹ ba
喉	no ¹ do	ɿnodo	nu ¹ dĩ
喉仏	nodobodoge	ɿnodobotoke	nudĩŋabu
つばき	¹ tʃut	tsutsu ¹ wẽ ¹ :	tzi ¹ zĩ
唾	nama ¹ tʃut/ ¹ tʃut	tsutsu ¹ wẽ ¹ :	tzi ¹ zĩ
涎	ju ¹ da ¹ re	ɿjodare	'ju ¹ dari
咳	¹ ik	ɿiki	t'a ¹ N
くしゃみ	hat ¹ tʃiN/haʃ ¹ ʃiN	ɿkũʃami	p'ana p'iri(鼻嚏り)
しゃっくり	gek ¹ kui/gik ¹ kui	git ¹ tʃiN	gĩttzi/gĩttzi ʔuk'i
胸やけ		muneja ¹ ke	nĩ:wa ¹ rẽ

項目名	穎娃町青戸	十島村宝島	笠利町佐仁
欠伸	akut	akubi	?a ¹ kubi
鼾	i ¹ bik	libiki	p ¹ ana nara sun(鳴らす)
息	ik	iki	?i ¹ k ¹ i
声	ko ¹ je	ko ¹ e	hu ¹ i
嚔唾	moŋo/mona	lo ¹ ji	?ju ¹ ja
吃	dzu ¹ mo ¹ i	domori	?i ¹ gja
手	t ¹ je	te	t ¹ i
腕	go ¹ de	ude	go ¹ t ¹ e (上腕)
腕	u ¹ de	—	h ¹ enna (肩から手首)
肘	hin ¹ t ¹ ji	hidzi	p ¹ i ¹ d ¹ zi
拳	gen ¹ kot	kobu ¹ ji	t ¹ ek ¹ k ¹ o
掌	t ¹ jenohi ¹ ra	tenohira	t ¹ i ¹ nup ¹ i ¹ ra
指	t ¹ it	jubi	?ju ¹ b ¹ i
親指	ojo ¹ it	ojajubi	?uja?ubi ¹ /?u: ¹ b ¹ i
人差指	hitosa ¹ ji ¹ jut	hitosa ¹ ji	t ¹ zu:sas ¹ ijubi
中指	naga ¹ it	nakajubi	na ¹ :b ¹ i/na ¹ :?ubi
薬指	kusui ¹ jut	ku ¹ sujubi	k ¹ usurijubi
小指	ko ¹ it	kojubi	k ¹ wa ¹ jubi
爪	t ¹ fu ¹ me	tsume	t ¹ zi ¹ i
足	a ¹ f	a ¹ si	p ¹ a ¹ gi
足の甲	aino se ¹ na	a ¹ si ¹ no ko:	?wab ¹ i
足の裏	aino ha ¹ ra	a ¹ si ¹ no si ¹ tahara	?ura
腿	huto ¹ mo ¹ mo	momo	mo ¹ : ¹ t ¹ abura
膝	t ¹ jum ¹ bus	tsubu ¹ ji	t ¹ se ¹ p ¹ use
すね	muga ¹ su ¹ ne	mukasune	si ¹ n ¹ i
ふくら脛	aino t ¹ fu ¹ t ¹ o	t ¹ su ¹ to	hu ¹ bura
踵	ado ¹ d ¹ zi:	kakado	?a ¹ do
踝	momo ¹ d ¹ za ¹ ne	kibi ¹ su	p ¹ aginu ga ¹ bu
股	mada ¹ bai	jokone	ma ¹ t ¹ abasi
木の股	—	bata	ma ¹ t ¹ a
跛の人	t ¹ sim ¹ ba	t ¹ simba	g ¹ ett ¹ ap ¹ agi
胴	d ¹ zu:	do:	du
体	ka ¹ ra ¹ da	karada	du
裸	hada ¹ ga	hadaka	p ¹ a ¹ da
裸足	ha ¹ das	hadasi	ha ¹ rap ¹ agi
肩	ka ¹ da	kata	ha ¹ t ¹ a
胸	mu ¹ ne	mune	ni ¹ /ni ¹ gut ¹ zi
乳	t ¹ ji ¹ d ¹ zi	t ¹ jit ¹ ji	t ¹ zi
乳房	—	t ¹ jit ¹ ji	t ¹ zi
乳首	t ¹ jiku ¹ t	t ¹ jit ¹ jikubi	—
腹	ha ¹ ra	hara	'wa ¹ t ¹ a
臍	he ¹ so/be ¹ so	heso	p ¹ u ¹ su
みぞおち	—	oto ¹ ji	ni ¹ ut ¹ u ¹ si
脇の下	wanno si ¹ ta	wakino si ¹ ta	ha ¹ t ¹ ap ¹ ara

項目名	穎娃町青戸	十島村宝島	笠利町佐仁
背中	ʃena ^ɾ ga	ʌʃenaka	na ^ɾ gani
腰	koʃ	ʌkoʃi	hu ^ɾ ʃi
尻	ket	ʌʃi:	ma ^ɾ ri
尻たぶ	ʃi:tabira	ʌʃi:buta	—
小便	ʃi ^ɾ biN	ʌʃomben	ʃiba ^ɾ ri
大便	ku ^ɾ so	ʌkuʃo	kú ^ɾ su
陰茎	kintama(?)	ʌʃimpo	mara/so
睾丸	kiŋ ^ɾ go ^ɾ ro	ʌkintama	k'int'a:
陰囊	go ^ɾ ro	—	púguri
女陰	man ^ɾ dʒu	ʌtsu:bi	p'i
月経	gek ^ɾ kei /ʌʃunno ^ɾ mun	ʌgekkei	tsi ^ɾ k'inumun /du ^ɾ numun
えな	i ^ɾ ja	ʌija ~ i ^ɾ ja	?a ^ɾ odzan
屁	^ɾ he	ʌhe	p'i
肛門	kennosu	ʌʃi:	—
肌	kawa	ʌkawa	p'a ^ɾ da
皮	ha ^ɾ da	ʌhada	ho
皺	ʃi ^ɾ wa	ʌʃiwa	ʃi ^ɾ wa
入れ墨	i ^ɾ re ^ɾ dzuN	ʌired ² umi	p'adziki (昔の女がした)
毛	hi ^ɾ ŋe	ʌke	p'i ^ɾ gi/h'i
骨	ho ^ɾ ne	ʌhone	p'u ^ɾ ni
腱・筋	^ɾ sut	ʌsudʒi	s'i ^ɾ dzi
肉	^ɾ nik	ʌniku	—
血	^ɾ tʃi	ʌtʃi	tʒi
血管	tʃi ^ɾ sut	ʌkekkan	—
脈	^ɾ mjak	ʌmjaku	na: ^ɾ k'u ~ na ^ɾ k'u
関節	hui ^ɾ bus	ʌhuʃi	—
汗	a ^ɾ se	ʌaʃe	?a ^ɾ s'i
あせも	a ^ɾ set/ase ^ɾ bo	ʌaʃebu	?a ^ɾ s'ibu
垢	ko ^ɾ ge/a ^ɾ ga	ʌaka	p'i ^ɾ guru
黒子	hogu ^ɾ ro	ʌhoguro	?a ^ɾ dza
痣	a ^ɾ dza/a ^ɾ be/hojoge	ʌadza ~ ʌad ² a	?a ^ɾ dza
ものもらい	innokus ^ɾ so	i: ^ɾ morë	?i ^ɾ birin
傷	^ɾ kis	ʌkidzr ~ ʌkid ² u	k'i ^ɾ dzi
瘤	kot (~kob)	ʌkobu	—
ねぶと	net ^ɾ to/nen ^ɾ to	ʌnebu	n'i ^ɾ but'u
膿	^ɾ uN	ʌumi	?u ^ɾ N
瘡蓋	^ɾ tʃu	ʌtonggo:	—
疥癬	ʃigga ^ɾ sa	ʌʃitsigasa	'jo ^ɾ gogassa
疥	ʃita ^ɾ kit	ʌʃirakumo	—
心	ko ^ɾ go ^ɾ ro	—	k'o ^ɾ :ro
動物	ke ^ɾ da ^ɾ mun/ke ^ɾ mun	ʌkimoN	?i ^ɾ k'imun/h'idamun
鳥	to ^ɾ i	ʌtoi	t'u ^ɾ ri
虫	^ɾ mus	ʌmuʃi	mu ^ɾ ʃi

項目名	穎娃町青戸	十島村宝島	笠利町佐仁
魚	ju ¹ wo	liwo	?ju
雄	ot ¹ tʃu/ ¹ ot	losu	'i ¹ ŋga
雌	met/men ¹ tʃu/me ¹ na	umesu	'u ¹ nagu
豚	bu ¹ ta	lbuta	?wa
母豚	ojabuta	kotoi jo: no buta	kwa ¹ mutʃi?wa
種豚	tanebu ¹ ta	ltanebuta	t'a ¹ n ¹ i?wa
馬	m: ¹ ma	uma	?ma
牛	ʌʃ ~ ʌs	luʃi	?u ¹ ʃi
山羊	jaŋi/ ¹ jaN (古)	ljagi	pja ¹ ndza/jagi
肉	¹ nik	lniku	ʃi ¹ ʃi
脂肉	ʃiro ¹ mi	lʃironiku	(?abura?)
赤肉	a ¹ ga ¹ mi	lakaniku	ʃi ¹ ʃi
肝臟	kimo	lkimo	kjo ¹ õ
腎臟	dʒindzo	lhuku	p'u ¹ k'u
胃	ʌi:	li	—
腸	wa ¹ da/harawa ¹ da	ltʃo:	wa ¹ ta
肋骨	a ¹ ba ¹ ra	labara	sëmbun ¹ i
肺	ha ¹ i	ha ¹ i	—
心臟	ʃin ¹ dzo ¹ :	lʃind ² o:	—
内蔵	wada	lnakawata (胃腸)	wa ¹ ta
犬	¹ iN	liN	?i ¹ N
猫	ne ¹ go	lneko	ma ¹ ja
鼠	ne ¹ dzuN	lned ² umi	n ¹ idziN
猿	¹ sai	lsaru	sa ¹ ru
爪	tʃu ¹ me	ltsume	tzi ¹ i
角	tʃu ¹ no	ltuno	tzi ¹ nu
尾	ʃi: ¹ bo	ʃi: ¹ wo	dzi ¹ bo
鶏	niwa ¹ toi	lniwatoui	t'u ¹ ri
鶏の爪	tʃu ¹ me	ltsume	tzi ¹ i
鶏の蹴爪	kendzu ¹ me	—	—
雛	hi ¹ jo ¹ ko	lhijoko	p'i ¹ jo
卵	tama ¹ ŋo	ltamago	t'a ¹ :go/hu ¹ ga (古)
巢	¹ su	lsu	si
翼	ha ¹ ne	lhane	p'a ¹ ŋgi
羽	ha ¹ ne/ho ¹ ro	lhoru	p'a ¹ ni
口ばし	kub ¹ baʃ	lkutʃibaʃi	—
雀	sudzu ¹ me	lsud ² ume	'ju ¹ nduri
鳩	ha ¹ do	lhato	p'a ¹ t'o
烏	ka ¹ ras	lgarasu	ga ¹ rasin
蟻	ʃi ¹ ai/su ¹ wai	lai	?a ¹ N
蜂	¹ hat	lhatʃi	p'a ¹ tʃi
蠅	ʌhe:	lhwe:	p'a ¹ i
蚊	ka	lka	ga ¹ dʒaN
蜘蛛	kot	lkumo	ku ¹ mo

項目名	額娃町青戸	十島村宝島	笠利町佐仁
蚤	ɽnon/ (ɽnom)	ɽnomi	nu ɽN
虱	ʃi ɽtan	ɽʃirami	ʃi ɽran
蝶々	tʃo: ɽtʃo	ɽtʃo:tʃo	habira/tʃo: ɽtʃo (新)
蜻蛉	a ɽges/bo ɽi	ɽwē: ɽkjo	'je ɽ: ɽdzan
蝙蝠	ko: ɽmoi	ɽko: ɽmori	ko: ɽmori
蛇	ɽmuʃ	ɽhebi	—
ハブ	—	ɽhabu	ma ɽdʒun
やもり	ja ɽmoi	ɽjamoi	ʃo: ɽbĩnʃi ɽkjabuja
海豚	i ru ɽka	ɽiruka	pú ɽtú
鯨	kudzi ɽra	ɽkudzi ra	kú ɽdzi ra
亀	ka ɽme	ɽkame	ha ɽĩ
蛸	ta ɽgo	ɽtako	t'a ɽu
烏賊	i ɽga~i ɽka	ɽlika	?i ɽkja
こぶしめ	—	ɽkobofime	—
蟹	ga ɽne	ɽgane	ga ɽN
海老	' ɽjet	ɽebi	?i ɽbi
鱗	uro ɽko	ɽuroko	?i ɽriki
鰭	hi ɽre	ɽhire	—
鰓	je ɽra	ɽaɽi	?a ɽgi
巻貝	ɽke	ɽkai	na
二枚貝	mi ɽna	—	—
蝸牛	katatʃu ɽmui /dendemmuʃ	ɽdendemmuʃi	tziɽna
ナメクジ	ma ɽme ɽkuʃ	ɽnamekudzi	namekú ɽdzi
蛙	bit ɽta/bit ɽtʃa	ɽbiki	bik ɽkja
杓ヅヤク	gegou ɽko	ɽbikiɽko	mottʃa ɽra
ごきぶり	ama ɽme	ɽjakwa	pú ɽnato
螞蟻	ouɽa ɽme	ɽkamakiri	?i ɽʃa ɽto
飛蝗	ta ɽga	ka ɽto ɽdzi	gat ɽt'a
蟬	' ɽset	ɽʃebi	?a ɽsasa
蚯蚓	memedzi ɽro/me ɽmeʃ	ɽmimidzu	bi ɽndza
目	wa ɽna/o ɽtoʃ (目白用)	ɽwana	?u ɽt'aʃikago (目白用)
木	ɽki:	ɽki	hi
草	ku ɽsa	ɽkusa	kú ɽsa
海藻	ɽnoi	ɽka iso:	mo/?i ɽonukusa
菜	ja ɽse/nan ɽha	ɽnappa	na
稲	—	ɽine	?ni
穂	ɽho	ɽho	pú
米	ko ɽme	ɽkome	hu ɽĩ
粉	mo ɽN	ɽmomi	mu ɽmi
粉がら	moN ɽna ɽra	ɽmomigara	s i kú ɽpú
葉	wa ɽra	ɽwara	'wa ɽra
甘藷	karai ɽmo	ɽkara imo	ɽt'ON
甘藷の茎	dʒu ɽra	ɽkara/imo ɽnka	t'ou ɽgara

項目名	額娃町青戸	十島村宝島	笠利町佐仁
甘藷の葉	dʒu ¹ ra	—	—
田芋	—	ɽtaimo	t'a:ɽman
里芋	sa ¹ de ¹ mo	ɽsatoimo	ma ¹ N/p'a ¹ t'emaN
山芋	jamo i ¹ mo	ɽjamaimo ※宝島にはない	'ja ¹ :iN
じゃが芋	dʒa ¹ ŋa ¹ ta	ɽdʒagaimo	dʒa ¹ gaimo
くわず芋	—	ɽgodʒemi	'jo ¹ gomaN
砂糖黍	sadokit/oggara	ɽsato:kibi	'u ¹ gi
玉蜀黍	to ¹ kit	ɽto:kibi	t'ok ¹ kibi
粟	a ¹ wa	ɽawa	?a ¹ wa
豆	ma ¹ me	ɽname	ma ¹ i
落花生	dak ¹ ki ¹ ʃo	ɽdakʉʃʃo	dʒi ¹ ma ¹ i
大麦	aramuk ~ aramuN	ɽo:mugi	?u:mugi
小麦	ko ¹ muN	ɽkomugi	k'omugi
麦	ɽmuN	ɽmugi	mu ¹ gi
蓬	ɽhut	ɽhʉtsu	p'u ¹ tzi
茄子	na ¹ sut	ɽnasubi	na ¹ subi
胡瓜	ki ¹ ui	ɽkju:i	hu ¹ :ri
南瓜	ka ¹ bu ¹ tʃa	ɽbo:bura	tziburu
西瓜	su ¹ ga/su ¹ ka	ɽsuika	s'ek ¹ k'wa
冬瓜	tʃu ¹ ŋa	ɽto:ɽgwa	ʃi ¹ buri
糸瓜	ido ¹ ui	ɽito ¹ ui	na ¹ b'ira
苦瓜	nina ¹ ŋoi	ɽniga ¹ ui	ni ¹ g'jaguri
トマト	to ¹ ma ¹ to	ɽtomato	tomato
大根	de ¹ gon	d'i ¹ :kon	do ¹ k'one ~ do ¹ hon'e
人参	ni ¹ dʒiN	ɽnindʒiN	n'i ¹ :dʒiN
牛蒡	go ¹ bo	ɽgobo:	gu ¹ bu
蕪	ka ¹ bu	ɽkabura	ka ¹ bu
胡麻	go ¹ ma	ɽgoma	?u ¹ guwa
パパイヤ	—	ɽpapaija	p'ap'aja
ねぎ	ne ¹ gi/hi ¹ :	ɽnegi	k'i ¹ bira
にら	ni ¹ ra	ɽnira	bi ¹ ra
にんにく	u ¹ hi:	ɽninniku	p'u ¹ ru/p'i ¹ ru
きのこ	kino ¹ ko	ɽkinoko	k'inoko/naba
カビ	mo ¹ ja	ɽkabi	ho ¹ dʒi
麴	'koʃ	ɽko:dʒi	—
竹	ta ¹ ge	ɽtake	d'e ¹ :
竹の子	ta ¹ geŋ ¹ ko	ɽtakeŋko	d'e ¹ :kk'wa
松	man ¹ nok	ɽmatsu	ma ¹ tzi
蘇鉄	so ¹ tet	ɽʃotetsu	s'e ¹ t'etzi
あだん	—	ɽadan	?a ¹ danagi
がじまる	—	ɽgadʒimaru	ga ¹ dzimaru
蒲葵	bi ¹ ro:	ɽkoba	hu ¹ ba
ふくぎ	—	—	k'wa ¹ dʒigi
桑	ɽkwa	ɽkuwa	k'wa ¹ :gi

項目名	穎娃町青戸	十島村宝島	笠利町佐仁
芭蕉(総)	—	└baʃoː	baʃa
芭蕉(実)	banaʃna	└baʃonnai	baʃa
芭蕉(糸)	—	└baʃoː	'jaʃːbafa
麻	aʃsa	—	?aʃsa
薄	susugʃgo	└susuki	gaʃja
仏桑花	haibisuʃkas	└haibisukasʊ	tʃoːʃtʃimbana
脚躑	tʃuʃtʃuʃ	└tsʊtsʊdʒi	tʃuʃʃudʒi
芽	me	└me	miʃdatʒi
木の芽	me	└kino me	—
花	haʃna	└hana	p'aʃna
茎	ʃkuk	└kʊki	ʃuʃni
実	ʃmiː	└mi	naʃri
種	sane	└tane	t'aʃni
皮	kaʃwa	└kawa	ho
果肉	miʃː	—	mi
根	ne/neʃbai	└ne	niʃp'iʃg'i (根毛)
幹	ʃnok	└miki	—
枝	jeʃda	└eda	'juʃda
梢	dʒut	└ura	p'aʃnadzak'i
梢(枝先)	jedahane	└ura	—
葉	ʃha	└ha	p'a
棘	toʃne	└toge	gi
あおさ	—	—	?oʃsa
海人草	maʃgui/maʃguju	└makui	maʃkuri
昆布	kop	└kobu	kʊʃbu

十島村宝島方言資料

項目名	第2調査票		
水	┌midzu~┌mid ² u	倉	┌kura
湯	┌ju	庭①	┌kado
湯気	┌juge	庭②	┌kaen
茶	┌tʃa/┌otʃa	垣根	┌kaki
酒	┌sake (日本酒)	石垣	┌iʃigaki
酒	┌ʃo:tʃu: (焼酎)	門	┌kidogutʃi (「木戸口」に対応)
食事、めし	┌meʃi	井戸	┌k'awa (cf.川 ┌ko:ra)
めし	┌meʃi	かまど	┌kamado
しる	┌otsuju	薪	taki ⁷ mon
おかず	┌okadzu	火	┌hi
粥	┌boro:	炎	┌honoho
塩	┌ʃio	煙	┌kemui
醤油	┌ʃo:ju	灰	hwē ⁷ :
味噌	┌miso	煤	┌susu
酢	┌su	炉、囲炉裏	┌dʒiro
唐辛子	┌koʃo:	鍋釜(総)	┌nabekama/┌nabe
油	┌abura	釜	┌kama
砂糖	┌sato:	汁鍋	┌ʃirunabe
お菓子	┌kwaʃi	しゃもじ	┌i:ɡë:
粉	┌kona	しゃくし	┌ʃakufi
食事の回数	若いころ3回 いま3回	大しゃもじ	┌ondʒo:i:ɡë:
朝食	┌asameʃi (6:30~7時ごろ)	やかん	┌jakan
昼食	┌himmeʃi (12時ごろ)	きゅうす	┌ʃoka
夕食	┌jo:meʃi (7時ごろ)	葉缶の口	┌hju:~┌çu:
ほかの食事	10時ごろ。たまに摂る。特別な名称はない。	ちやわん	┌ʃawan/┌junomidzawan
煙草	┌tabako	碗の総称	┌goki
煙管	┌kiʃeru	飯碗	┌meʃigoki
ラオ	┌sao	汁碗	┌ʃirugoki
家	┌je	皿	┌sara
柱	┌haʃira	箸	┌haʃi/┌temoto
床	┌ika	匙	┌sadʒi
壁	┌kabe	臼	┌usu/ki'usu (搗き臼)
屋根	┌jane	磨り臼	┌suri'usu
瓦	┌kawara	杵	┌nadegine
茅	┌kaja	杵	┌kine (T字型)
戸	┌to	碾き臼	┌hiki'usu
ひ(樋)	┌hju:~┌çu:	桶①	┌oke
とい(樋)	┌të:	桶②	┌tango
台所	┌suidʒiba	柄杓	┌hiʃaku
便所	┌bendʒo	豚の餌箱	butammombatʃi
豚小屋	┌butagoja	甕	┌tokkui
		壺	┌tsubo

蓋①	Ꞥhuta
蓋②	Ꞥnaben huta
包丁	Ꞥho:tʃo:
刃	Ꞥha
斧	Ꞥjoki
鉞	Ꞥnata
小刀	Ꞥkoŋatan
鎌	Ꞥkama
柄	Ꞥe
犁	Ꞥsuki
鋤	Ꞥto:gwa
刀	Ꞥkatan
鞘	Ꞥsaja
鋏	Ꞥhasami
鏡	Ꞥkaŋami
すき櫛	Ꞥkuʃi
とき櫛	Ꞥsabaki
かんざし	Ꞥkandʹaʃi
着物	ꞤkimoN
襟	Ꞥei
袖	Ꞥsode
裾	Ꞥsuso
帯	Ꞥobi
ぞうり	Ꞥdʒo i
下駄	Ꞥgeta
笠	Ꞥkasa
布団	Ꞥhuton
枕	Ꞥmakura
綿	Ꞥwata
糸	Ꞥito
針	Ꞥhai
布	Ꞥnuno
紙	Ꞥkami
筆	Ꞥhude
字	Ꞥdʒi
絵	Ꞥe/Ꞥedʹu
箱	Ꞥhako
袋	Ꞥhukuro
棒	Ꞥbo:
竿	Ꞥsao
板	Ꞥita
鋸	Ꞥnokoniri/Ꞥnoko
鉋	Ꞥkana
釘	Ꞥkuŋi

金槌	Ꞥkanadzutʃi
鑿	Ꞥnomi
錐	Ꞥki:
杭	Ꞥkui
槌	Ꞥondʒo:hamma:
紐	Ꞥhimo
縄①	Ꞥnawa
縄②	Ꞥtsunabira
網	Ꞥro:pu
針金	Ꞥharigane
網	Ꞥami
塵	Ꞥgomi/Ꞥtʃiri
ほこり	Ꞥhokoi
田	Ꞥta
畦	Ꞥadʒe
畑	Ꞥhatake
菜園	saembatake (?)
村、集落	Ꞥmura
いち(市)	—
道	Ꞥmitʃi/Ꞥdo:ro
橋	Ꞥhaʃi
船	Ꞥhune
權	Ꞥkai
帆	Ꞥho
舵	Ꞥkadʒi
海	Ꞥumi
島	Ꞥʃima
浜	Ꞥhama
海水	Ꞥʃio
波	Ꞥnami
干瀬	Ꞥʃe/Ꞥarabuʃe
内海	Ꞥkomo i
陸	Ꞥriku
土	Ꞥdoro
泥	Ꞥdobu
砂	Ꞥsuna
砂	Ꞥhabara (碎けたサンゴ)
石	Ꞥiʃi
岩	Ꞥiwa
金(金属)	Ꞥkane
山	Ꞥjama
丘	Ꞥoka
谷	ko:ʹra
頂上	Ꞥtʃo:dʒo:

斜面	—	昼	ɽhiru
坂道	ɽsakamitʃi	夜明け	ɽjo 'ake
平らな所	ɽheitʃi	朝	ɽasa (夜明け~8時ごろ)
窪んだ所	ɽkubotʃi	正午	ɽʃo:go
森林	ɽmoi	午前	ɽgodʒentʃu: (8時~12時ごろ)
野①	ɽnobarā	夕方	ɽjogotʃi:
野②	ɽmakiba (牛用の牧場)	昼下がり	ɽjatsudoki
崖	ɽgake	夕暮れ	ɽe:nokutʃi (7~8時頃をさす)
穴	ɽana	宵、晩	ɽjono i:imoto
洞穴①	ɽjoko 'ana	夜中	ɽjonaka
竪穴②	ɽtate 'ana	けさ	ɽkesa
孔①	ɽwa (五円玉などの穴)	明朝	ɽasuno asa
孔②	ɽme (針などの穴)	今夜	ɽkonpa
泉	ɽkawa	昨夜	kino: no ¹ ban
川	ko: ¹ ra	一昨夜	ototoi ¹ no ¹ ban
泡①	ɽawa	朝焼け	ɽasajake
泡②	ɽawa (せっけんなどの泡)	夕焼け	ɽju: jake
天、空	ɽsora	1年	ɽitʃinen
地	ɽtʃi	ひとつき	ɽikkagetsu/ɽçitotsuki
太陽	ɽtento:	月(month)	ɽtsuki
影	ɽkage	日(day)	ɽnitʃi
陰	ɽkage	ついたち	ɽtsuitatʃi
月	ɽtsuki	みそか	ɽtsuki ^d zue
みかづき	ɽmikadzuki	元旦	ɽgantʃo:
ほし	ɽhoʃi	大晦日	ɽmisoka (12月30日をさす)
雲	ɽkumo	大晦日	ɽo:misoka (12月31日をさす)
雨	ɽame	一月	ɽitʃinatsu
風	ɽkadze	二月	nina ¹ tsu
嵐	ɽarasʃi	三月	ɽsanatsu
虹	ɽnidzi	四月	ɽʃigatsu
雷	ɽkaminari	五月	ɽgogatsu
稲光	ɽinabikari	六月	ɽrokugatsu
天気	ɽtenki	七月	ɽʃitʃigatsu
いま	ɽima	八月	ɽhatʃigatsu
今日	ɽkjo:	九月	ɽkunatsu
明日	ɽaʃita	十月	ɽdzu:gatsu
あさって	ɽasatte	十一月	ʃimotsuki/dzu:itʃinatsu
明後日	ɽsasatte	十二月	ɽʃiwasu/ɽdzu:ninatsu
明明後日	ɽsakisasatte	年	ɽtoʃi
昨日	ɽkino:	今年	ɽkotoʃi
一昨日	ɽototë:	来年	ɽdi:nen
一昨昨日	ɽsaki 'ototë:	再来年	ɽsarï:nen
1日	çiʃi ¹ tʃi:	去年	ɽkjonen
夜	ɽjoru	一昨年	ɽotodotʃi

昔	ɽmukaʃi	70	ɽnanadʒu:
冬	ɽhuju	80	ɽhatʃidʒu:
夏	ɽnatsu	90	ɽkju:dʒu:
春	ɽharu	百	hjaʔku
秋	ɽaki	千	ɽʃen
稲の取り入	ɽkariʔire	二十歳	ɽhatatʃi
二日	ɽhʉtsuka	四九歳	ɽʃidʒu:ku
三日	ɽmikka	一人	ɽhiʔtoi
四日	ɽjokka	二人	ɽhʉtai
五日	ɽitsuka	三人	sanʔniʔN
六日	ɽmu:ka	四人	jonniʔN
七日	ɽnaŋka	五人	goniʔN
八日	joʔ:ka	六人	rokuniʔN
九日	ɽkokonoka	七人	nananiʔN/ɽʃitʃin
十日	ɽto:ka	八人	ɽhatʃin
二十日	hatsuʔka	九人	ɽkun
ひとつ	hiʔ:tsu	十人	ɽdʒu:n
ひい	hiʔ:	1回	ɽikka
ふたつ	hʉtaʔtsu	2回	niʔkaʔi
ふう	huʔ:	3回	ɽsaŋka
みっつ	mitʔtsu	4回	jonʔkaʔi
みい	miʔ:	5回	goʔkaʔi
よっつ	ɽjottsu	6回	rokʔka
よ	joʔ:	7回	ɽnanakai/ʃitʃiʔka
いつ	ɽitsutsu	8回	ɽhatʃikai
いつ	ɽitsu	9回	kju:ʔka
むっつ	mutʔtsu	10回	dʒikʔka
む	muʔ:	半分	ɽhambun
ななつ	nanaʔtsu	いっぱい	ɽippai
なな	naʔna	すこし	ɽʃotto
やっつ	jatʔtsu	3分の1	sambuʔnoʔ itʃi
や	ɽja:	4分の1	jombunʔnoʔ itʃi
このつ	kokoʔnoʔtsu	たくさん	dʒimʔbai~dʒimʔbai
この	ɽkono		
とお	toʔ:		
とお	toʔ:		
11	ɽdʒu:itʃi	項目名	第3調査票
12	ɽdʒu:ʔni	人間	ɽninggen/ɽhiʔto
13	dʒu:ʔsan	なまえ	ɽsei (姓) / ɽna (名)
20	ɽnidʒu:	人形	ɽningjo:
30	ɽsandʒu:	男	ɽotoko
40	ɽjondʒu:	女	onaʔgo
50	ɽgodʒu:	赤ん坊	akaʔgo
60	ɽrokudʒu:	おむつ	ɽofime
		ことば①	ɽkotoba/ɽmono

こども ɽkodomono
 男の子 ɽotokonko
 女の子 ɽonagonko
 おとな ɽotona
 老人 toʃijon
 若い wakë:
 年とつた toʃi^ɽ totta
 若者(男) nisi^ɽ:
 若者(女) jome^ɽdzo
 若者(総称) wakï^ɽ:/wakï:^ɽʃi (複数)
 壮年 kɽk^ɽkjo:
 ふけた hɽki^ɽtʃo:
 とき(時) ɽtoki
 時間 ɽdzikan
 年上 ɽtoʃi'ue
 年下 ɽtoʃiʃita
 同い年 ɽdo:hai
 友達(総称) ɽnakajoʃi
 恋人 ɽkoibito
 夫婦 ɽmeoto
 夫 ɽotto
 妻 ɽtsuma
 独身者 ɽhitoimon~ɽçitoimon
 やもめ(女) ɽjamome
 やもめ(男) ɽjamome
 めかけ ɽmekake
 親 ɽoja
 子 ɽko
 親子 ɽojako
 父親 ɽʃitʃi'oja
 母親 ɽhaha'oja
 おとうさん ɽotto/ɽtoto (古)
 おとうさん ɽto:saN (新)
 おかあさん ɽokka/ɽkaka (古)
 おかあさん ɽka:saN (新)
 祖父 ɽdzi:
 祖母 ɽmba
 おじいさん odzi^ɽ: (呼称)
 おばあさん ba^ɽ: (呼称)
 孫 ɽmano
 兄弟姉妹 ɽkjo:dï:
 姉妹 ɽonagonkjo:dï:
 男の兄弟 ɽotokonkjo:dï:
 兄 ɽandzo

姉 ɽanna
 弟 ɽoto:to
 妹 ɽimo:to
 兄さん ɽandzo/ɽni:saN (新)
 姉さん ɽanna/ɽne:saN (新)
 おじ ɽodzi
 おば ɽoba
 いとこ ɽitoko
 甥姪(総) —
 甥 ɽoi
 姪 ɽmei
 家族 ɽkad²oku
 嫁 ɽjome
 婿 ɽmuko
 入り婿 ɽmukojo:ʃi
 舅、姑 ɽʃu:to/ɽʃu:tome
 親戚 ɽʃinʃeki/ɽmiutʃi
 位牌 ɽihë:
 みなしご ɽojanaʃi/ɽojanaʃino
 私生児 ɽʃiʃeidzi
 使用人 —
 子守り ɽkomoï
 乞食 ɽkodziki
 泥棒 ɽdorobo:/ɽnusubito
 酔っ払い ɽjopparë:
 同郷の人 ɽdo:kjo:nin
 仲間 ɽnakama
 移住者 ɽidzu:ʃa
 金、銭 ɽdzeN
 金持ち ɽgubenʃa
 貧乏人 ɽbimbo
 店 ɽmiʃe
 模合 ɽmoe:
 ユイ katarë:ʃigo^ɽto (語らい仕事)
 寄り合い ɽjoi'e:
 手拭① teno^ɽgë:
 手拭② ɽhatʃimaki
 ふろしき ɽhuroʃiki
 ぼろ ɽboro
 お盆 ɽobon
 まないた ɽmana'ita
 ほうき ho:^ɽki
 道具 ɽdo:ɽu
 竿 ɽsao

杖	ɽtsue	真北	ɽwëːta
鞭	ɽmutʃi	東風	ɽkotʃikadʒe
上	ɽue	西風	ɽniʃiŋkadʒe
下	ɽçita	南風	ɽhaeŋkadʒe
逆さま	ɽsakasama	北風	ɽwëːtaŋkadʒe
中	ɽnaka	北西の風	ɽnakaniʃi
外	ɽsoto	北東の風	ɽkiʃitagotʃi
右	ɽmigi	南西の風	ɽsudaibae
左	ɽhidai	南東の風	ɽoʃana
前	ɽmae	わたし	ɽoi
後ろ	ɽoʃiro/ɽuʃiro	おまえ①	ɽwaga
向かい	ɽmukëː	おまえ②	ɽkiʃisama (目下)
裏	ɽura/ɽuragawa	あなた①	ɽodʒiː
真ん中	ɽnakahodo	あなた②	ɽodʒisan (あなたさま)
間(場所)	ɽaida	私たち	ɽoinanda
中	ɽnaka	お前たち	ɽwagaʃitatʃi
隙間	ɽsukima	あなたたち	ɽodʒiːnanda
間に	ɽaidani	あなたさま	ɽodʒisannanda (あなたさまがた)
間(時間)	ɽaida	みなさん	ɽminasan
奥	ɽoku	みんな	ɽminna
裏	ɽura	自分	ɽdʒibun
表	ɽomote	自分で	ɽdʒibunde
裏返し	ɽuragaesʃi	各自	ɽkakudʒi/ɽdʒibundʒibun
へり	ɽhei	どれ	ɽdoi
側	ɽsoba	あれ	ɽare
縦	ɽtate	これ	ɽkoi
横	ɽjoko	それ	ɽsoi
斜め	ɽnaname	どこ	ɽdoko
隅	ɽsumi	あそこ	ɽaçiko
真ん中	ɽmannaka	ここ	ɽkoko
先	ɽsaki	そこ	ɽsoko
端	ɽhaʃi	どの	ɽdono
表面	ɽhjoːmen	あの	ɽano
底	ɽsoko	この	ɽkono
跡	ɽato	その	ɽsono
所	ɽtokoro	どんな	ɽdogena
隣	ɽtonai	あんな	ɽagena
近所	ɽkindʒo	こんな	ɽkogena
十字路	ɽdʒuːdʒiro	そんな	ɽsonna
角(場所)	ɽkado	どの辺	ɽdokono ⁷ hen
東	ɽhiŋa ⁷ ʃi	あの辺	ɽano hen
西	ɽni ⁷ ʃi	この辺	ɽkono hen
南	ɽminami	その辺	ɽsono hen
北	ɽkita	だれ	ɽdai ⁷ ka (だれか)

なに ɽnaika (なにか)
 いつ ɽitsu
 いくつ ɽikutsu
 いくら ɽikura
 どのくらい ɽikuragurai (量)
 どのくらい dono kurai 「no」 (大きさ)
 なぜ ɽnadze / ɽnafite
 どうして dogenʃi 「te」
 なにか ɽnaika
 いつか ɽitsuka
 だれか ɽdaika
 なにも ɽnaimo
 いつも ɽitsumo
 だれも ɽdaimo
 なんでも ɽnandemo
 いつでも itsu 「de」 mo
 だれでも ɽdaidemo

項目名 第4調査票

あまい ami「」:
 塩辛い kari「」:
 からい kari「」:
 すっぱい ɽsui
 苦い nigī「」:
 渋い ʃibu「」:
 塩辛い kari「」: / ɽʃiokari:
 不味い madzu「」:
 美味しい umī「」:
 ひもじい ɽhudaru
 気分が悪い kibun 「na」 「waru」:
 苦しい ɽkuruʃi:
 恥ずかしい ɽhadzukaʃi:
 忙しい ɽisogaʃi:
 寂しい ɽsabiʃi:
 懐かしい ɽnatʃukaʃi:
 楽しい ɽtanofʃi:
 可笑しい ɽokaʃi:
 おもしろい omoʃi 「rē」:
 嬉しい ɽureʃi:
 悲しい ɽkanaʃi:
 可哀そう ɽkawaiso:
 憎い ni 「ku」:
 かわいい ɽkawai:

恐ろしい ɽotoroʃi:
 うるさい uru 「sī」:
 喧しい ɽjakamaʃi:
 寂しい ɽsabiʃi: / ɽsamiʃi:
 珍しい ɽmedʃuraʃi:
 ふしぎ ɽhuʃigi
 大切に ɽdī:dʒini
 かゆい ɽkajui
 くすぐたい ɽkʊsuguttī:
 ちくちくする tʃiʃikutʃi 「ku」 suru
 だるい daru「」:
 煙い kemu「」:
 危ない ɽabunī:
 難しい ɽmudzukaʃi:
 易しい ɽjasasi:
 寒い samu「」:
 暖かい ɽatatakī:
 暑い ɽatsu:
 涼しい ɽsudzuʃi:
 冷たい ɽtsumetī:
 熱い atsu「」:
 ぬるい nuru「」:
 眩しい ɽmabuʃi:
 暗い ɽkurī:
 明るい ɽakaru:
 大きい hu「tē」:
 小さい ɽkomī:
 幼い komanka koro (小さい頃)
 大きい hu「to」: natte (大きくなって)
 厚い atsu「」:
 薄い usu「」:
 丸い maru「」:
 平たい ɽhiratī:
 太い hu「tē」:
 細い ho「sē」:
 太っている hutot「tʃo」:
 やせている jafetʃo:
 長い nagī「」:
 短い ɽmitsiki:
 深い hu「kī」:
 浅い ɽasī:
 高い ɽtakī:
 低い hiʃku「」: ~çiku「」:
 広い hi「rē」:

狭い	ɽsebiː	きれい	ɽkirei
きゆうくつ	ɽkjuːkʉtsu	醜い	ɽminikuː
遠い	ɽtowëː	きれい	ɽkireidʒaː
近い	tʃiːkʲiː	黒い	ɽkurëː/ɽkuro (黒)
重い	ɽobuː/ɽomotʲiː	白い	ɽʃirëː/ɽʃiro (白)
軽い	ɽkaruː	赤い	ɽaki/ɽaka (赤)
荒い	ɽariː	青い	ɽawëː/ɽao/ɽaoiro (青)
細かい	ɽkomʲiː	青い	ɽawëː (木の葉の色・緑)
硬い	ɽkatiː	黄色い	kiːˈroi/kiːˈro (黄色)
柔らかい	ɽjawarakʲiː	空色	ɽsorairo
古い	huruˈː	ねずみ色	ɽnedʒumi
新しい	ɽniːmoN (新しいもの)	紫色	ɽmurasaki
若い	waˈkʲiː	土色	ɽtsutʃiguro
強い	ɽtsueː	濃い(色)	koiˈː
弱い	ɽjowʲiː	薄い(色)	usuˈː
高い	ɽtakiː	濃い(味)	ɽkojui/koiˈː
安い	ɽjasuː	薄い(味)	usuˈː
多い	ɽowëː	書きにくい	ɽkakʲiniˈkuˈː
少ない	ɽsʉkunʲiː	書きやすい	ɽkakʲijaˈsuˈː
悪い	ɽwaruː	休みたい	jasumiˈtiˈː
良い	ɽeː	飲みたい	nomiˈtiˈː
よろしい	ɽeːdo	鳴き声①	ɽmmoː (牛)
わるい	ɽwarukatta (悪かった)	鳴き声②	ɽmbeː (山羊)
完全である	ɽkandzen dʒaː	鳴き声③	ɽguːguː (豚)
よい	ɽjokanaː	鳴き声④	ɽhihiːN (馬)
はやい	ɽhaeː	鳴き声⑤	ɽnao (猫)
のろい	noˈreˈː	鳴き声⑥	ɽwanwan (犬)
はやい	ɽhaeː	鳴き声⑦	ɽkokekokko (鶏)
おそい	ɽosëː	鳴き声⑧	kaːˈka (カラス)
すばやい	ɽsubaeː	鳴き声⑨	kerokero (蛙)
のろい	ɽnorëː	鳴き声⑩	tʃuːˈtʃu (ネズミ)
あらい	ɽariː	鳴き声⑪	鳩 ɽkjukkju (鳩)
おとなしい	ɽotonaʃiː	鳴き声⑫	ɽsesses sesse /tsunggëːˈtsunggëː (セミ)
臆病	ɽokubjoː	蝶の羽音	ɽbuːbuː
優しい	ɽjasaʃiː	かけ声	ɽʃʃo/ɽʃoːʃoː (犬、猫へ)
もろい	ɽmorëː	かけ声	ɽhoihoi/ɽhaːhaː (牛、馬へ)
しっかり	ʃikkai	かけ声	ɽtoitoitoitoi (鶏へ)
におい	ɽnioi/ɽkadʒa	かけ声	ɽʃiː (人に静かにするように)
かんばしい	ɽkabaʃiː	かけ声	ɽʃitoʃito~ɽçitoçito
くさい	ɽkusʲiː	小雨の音	ɽzaːˈdzaː
におい	suiːˈkadʒa (すっぱい)	大雨の音	kiraˈkira
におい	amiːˈkadʒa (甘い)	太陽の光	kiraˈkira
におい	amadʒuiːˈkadʒa (甘ずっぱい)	星の光	
汚い	ɽkitaniː		

風の音	① _L sawasawa② _L çu:çu: ③ _L bu:bu: (①⇒③風は強くなる)	包丁の音	saku [˧] saku
雷の音	doro [˧] doro	煮える音	gutsu [˧] gutsu
火のさま	bo: [˧] bo:	揚げる音	dzu: [˧] dzu:
煙のさま	mo: [˧] mo:	焼く音	dzi: [˧] dzi:
しずくの音	tʃoro [˧] tʃoro /ʃi:to [˧] ʃi:to~çi:to [˧] çi:to	食べ物	atsu [˧] atsu (熱い食べ物) のさま
水の流れ①	dza: [˧] dza: (大量の水)	食べ物	ɭhiemoN (冷えた食べ物)
水の流れ②	tʃoro [˧] tʃoro (少量の水)	食べ物	ɭboroboro (水気の少ないさま)
水の音①	ʃa: [˧] ʃa:	食べ物	ɭdzabudzabu (水気の多いさま)
水の音②	dzambu [˧] dzambu	泣き声	ɭogja 'ogja (赤ん坊)
落ちる音	ɭtʃappuN (水)	泣き声①	ʃi:ku [˧] ʃi:ku (すすり泣く声)
落ちる音	ɭgoton/ɭgotton (物)	泣き声②	ɭwanwan (わめき泣く声)
割れる音	ɭgattʃan	笑い声①	ɭhi:hi: (小声で笑うさま)
折れる音	poki [˧] N	笑い声②	ɭha:ha: (大声で笑うさま)
転がるさま	ɭgorogoro	笑い声③	ɭhu:hu: (くすくす笑うさま)
揺れるさま	ki: [˧] ki:	笑うさま	nija [˧] nija (声を出さずに)
地震のさま	gi: [˧] gi:	怒るさま	ga [˧] :ŋŋan
地震のさま	buibu [˧] i (家の揺れる音)	咳の音	ɭkohonkohon
木の葉	hi:ra [˧] hira (落ちるさま)	鼾の音	gu: [˧] gu:
草の生える	bo: [˧] bo:	眠るさま	suja [˧] suja
風に翻る	ɭbasabasa	息のさま	ha: [˧] ha:/hu: [˧] hu: /su: [˧] su:
魚のはねる	pi:ʃi [˧] pi:ʃi	喘息ま	ʃe: [˧] ʃe:
すべるさま	tsuru [˧] tsuru	唾をはく	tʃu [˧] N/ɭpe
ぬかるむ	doro [˧] doro/dobu [˧] dobu	痰をはく	ɭwe:
ねばるさま	beta [˧] beta	嘔吐	ge [˧] :
しわのよる	bi:ʃa [˧] bi:ʃa	おしゃべり	pera [˧] pera
ゆるいさま	dabu [˧] dabu	くすぐる	kotʃo [˧] kotʃo
ぎざぎざ	gidza [˧] gidza	動かない	ɭdamã:tto (黙ってる)
くねくね	kuna [˧] kuna	歩くさま	ɭsassa
がらんどろ	karap [˧] po (からっぽ)	震える様	buru [˧] buru
静かなさま	ɭʃidzuka (静か)	瞬きの様	patʃi [˧] patʃi
ざわめく音	dzawa [˧] zawa	目の動く	kjoro [˧] kjoro
太鼓の音	ton [˧] ton	眩しい様	tʃika [˧] tʃika
三味線の音	pim [˧] pin	たべるさま	mu:ʃa [˧] mu:ʃa/paku [˧] paku
銅鑼の音	ɭgaŋŋan	飲むさま	gu: [˧] gu:
鈴の音	ɭtʃirintʃirin	髭のさま	bo: [˧] bo:
手を叩く音	pa:ʃa [˧] pa:ʃa	髪の毛のさま	bo:ʃo [˧] bo:ʃo
なぐる音	ɭpi:ʃa (平手打ち)	涙・汗	boro [˧] boro/dara [˧] dara
なぐる音	ɭdoka:N (げんこつ)	血	doku [˧] doku (流れるさま)
金槌の音	ton [˧] ton	驚くさま	doki [˧] doki
鋸の音	gi:ʃi [˧] gi:ʃi	貧乏なさま	pi: [˧] pi: